

ミャンマー国

ミャンマー国
日本の図書館支援ノウハウを活かした
「課題解決型」子供図書館モデル構築の
ための案件化調査
業務完了報告書

2020年5月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）

株式会社 図書館流通センター

民連
JR
20-037

<本報告書の利用についての注意・免責事項>

- ・本報告書の内容は、JICA が受託企業に作成を委託し、作成時点で入手した情報に基づくものであり、その後の社会情勢の変化、法律改正等によって本報告書の内容が変わる場合があります。また、掲載した情報・コメントは受託企業の判断によるものが含まれ、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。本報告書を通じて提供される情報に基づいて何らかの行為をされる場合には、必ずご自身の責任で行ってください。
- ・利用者が本報告書を利用したことから生じる損害に関し、JICA 及び提案法人は、いかなる責任も負いかねます。

目次

略語一覧	iii
要約	iv
案件概要図	vii
第1章 本 JICA 事業の概要	1
(1) 本事業実施の背景	1
(2) 本事業の達成目標	1
(3) 本事業の実施体制	2
(4) 本事業の実施内容及び結果	2
(5) ビジネス展開の見込みと根拠	7
第2章 本ビジネスの概要	9
(1) ビジネスモデルの全体像	9
① 現時点で想定されるビジネスモデルの全体像（図、説明書き等）	9
② 本ビジネスに用いられる製品・技術・ノウハウ等の概要	9
③ 上記②の国内外の導入、販売実績（販売開始年、販売数量、売上、シェア等）	10
(2) ターゲットとする市場・顧客	10
① ターゲットとする市場の概況	10
② 本ビジネスに対する現地ニーズ	11
③ 本ビジネスの対象とする顧客層とその購買力	11
④ 必要なインフラの整備状況	11
⑤ 競合する企業/製品/サービス等の状況	11
(3) 現時点で想定する実施体制	11
① バリューチェーン計画	11
② 本ビジネスの実施体制	11
(4) 想定されるリスクとその対応策	11
① 許認可等取得の必要性	11
② 許認可以外のリスク対策	11
③ 環境・社会・文化・慣習面（ジェンダー、カースト、宗教、マイノリティ等社会的弱者）のリスク対策、配慮	12
(5) 現時点で想定する事業計画	12
① 収支計画	12
② 収支計画の根拠およびビジネス展開のスケジュール	12
③ 初期投資額及び投資回収見込時期	12
④ 資金調達手段の見込み	12
(6) 本ビジネスの提案法人における位置づけ	12
① 本ビジネスの経営戦略上における位置づけ	12
② 既存のコアビジネスと本ビジネスの関連（活かせる強み等）	12

③ 本ビジネスの社内での検討状況	12
(7) 本 JICA 事業終了後のビジネス展開方針	12
第 3 章 SDGs 達成への貢献可能性	13
(1) 対象国・地域における課題	13
(2) 本ビジネスを通じた SDGs 達成への貢献可能性	14
① 貢献を目指す SDGs のゴール・ターゲット	14
② SDGs への貢献可能性	14
③ 波及効果	16
(3) JICA 事業との連携可能性	16

略語一覧

略語	英語	日本語
IFLA	International Federation of Library Association	国際図書館連盟
MARC	Machine Readable Cataloging	書誌データベース
MBAPF	Myanmar Book Aid & Preservation Foundation	ミャンマー・ブックエイド・アンド・プリザベーション財団
MOI	Ministry of Information	情報省
NL	National Library, Yangon	国立図書館（ヤンゴン）
新 NL	New National Library, Yangon	新国立図書館（ヤンゴン）
NLD	National League for Democracy	国民民主連盟
PFI	Private Finance Initiative	プライベート・ファイナンス・イニシアティブ
TRC	Toshokan Ryutsu Center	図書館流通センター
UNICEF	The United Nations Children's Fund	国際連合児童基金（ユニセフ）

要約

1. 案件名	<p>日本の図書館支援ノウハウを活かした「課題解決型」子供図書館モデル構築のための案件化調査</p> <p>SDGs Business Model Formulation Survey with the Private Sector for Creating the Problem-solving Library for Children</p>
2. 対象国／地域	ミャンマー国ヤンゴン市
3. ビジネスの概要	<p>ヤンゴン市内に開館予定の新国立図書館（以下、新NL）等の図書館において、日本における図書館支援の経験・ノウハウを活かした「課題解決型」子供図書館モデルをパイロット事業を通じて構築し、開発効果の検証及び横展開するビジネスモデルの策定を行うもの。</p>
4. 本事業実施期間	2019年5月～2020年6月（1年2ヶ月）
5. 本事業の達成目標及び結果	<p>目標 a：本ビジネスで対象とする、ヤンゴン市内の子供たちの課題・ニーズが設定され、その内容に応じた「課題解決型」子供図書館の開館・運営計画とビジネスモデルが策定される。</p> <p>結果：ミャンマー国では、携帯電話の普及によりインターネットでの情報取得が容易になる一方、子供の読書習慣の定着と発展が進んでいないという課題がある。その結果、子供たちの考え・学ぶ力の醸成に偏り・不足が生じており、今後のミャンマー国の民主的発展の阻害要因ともなり得る。</p> <p>この子供達の読書習慣が醸成されていないという課題に対して、当社は日本で培った図書館サービスのノウハウを投入し、子供達が読書を通じて主体的に考え・学ぶ環境を創り出し、読書習慣の定着と発展へ繋がる「課題解決型」子供図書館のモデルを構築するために、本事業の設計を行った。</p> <p>子供の読書習慣の定着と発展という課題解決に向けて当社の経営資源を活かして取り組めるものとして、①人（図書館司書育成）、②書籍（良質な絵本）、③技術の軸を定めて課題解決型図書館の実現に向けた事業構築を行うことにした。</p> <p>本調査事業ではまず、①と②について、移動型図書館活動の実施を通して、当社のサービスや日本の絵本がミャンマー国における子供達・保護者のニーズに対して貢献可能かを検証するパイロットプロジェクトとして、移動型図書館活動をヤンゴン市内4か所（書店、児童養護施設、国際交流基金、公立小学校）で実施した。なお、③については、調査をする中で明確に見えてきた軸であり、引き続き調査を行っている。</p>

	<p>目標 b：政府（宗教文化省、教育省、情報省等）、NL を始めとする関係機関、現地パートナーとの強い協力関係が構築される。</p> <p>結果：ミャンマー国政府の宗教文化省（国立図書館を管轄）及び情報省（公共図書館を管轄）の担当局長をはじめとした図書館責任者とのコミュニケーション及び内部施設・業務に入り込んでの現地調査を繰り返し、現状を明確に把握し、ニーズを確認することができた。そのプロセスを通して、宗教文化省及び傘下の国立図書館の担当局長並びに国立図書館関係者、情報省の担当局長及び公共図書館管轄関係者との強い協力関係を構築することが出来た。</p> <p>目標 c：本ビジネスがどのようにヤンゴン市内の子供たちの課題解決に繋がるか、貢献ロジックが整理され、開発効果が推計される。</p> <p>結果：図書館が未発達のミャンマー国において、図書館支援を通じ、未来を担う子供たちが良質な本や資料に接する機会を増やし、情報を得る力、自ら考える力をつけることは、彼らの生涯にわたる学習機会の促進につながる(Goal4)。また、図書館における情報の整備・管理を支援することで、国民の情報アクセスを高めることは、健全な民主化の促進にも貢献する(Goal16)。貢献ロジックと開発効果は下記9に記載の通り。</p>
<p>6. ビジネス展開の見込みと根拠</p>	<p>ビジネス化は可能であると判断した。判断根拠は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移動型図書館活動や、ミャンマー国政府をはじめとした関係者との協議・現地調査を通して、当社のノウハウ・人材・サービス提供に対するニーズの所在や提供できる価値が確認された。 ● ビジネス展開の全体像と個別サービスのビジネスモデルが形成された。個別のビジネスモデルについては以下7の通り。
<p>7. 実現を目指すビジネスモデル</p>	<p>「課題解決型」子供図書館モデルは、（1）第一号モデル：新 NL 向けコンサルティング・人材育成、（2）第二号モデル：複合型施設を対象にした図書館運営を軸に構築する。</p>
<p>8. 貢献を目指す SDGs のゴール・ターゲット</p>	<p>○ゴール 4：「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」</p> <p>ターゲット 4.6：「2030 年までに、全ての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする」</p> <p>○ゴール 16：「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的</p>

	<p>で説明責任のある包摂的な制度を構築する」</p> <p>ターゲット 16.10 : 「国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する」</p>
9. SDGs 達成への貢献可能性	<p>5.に記載の通り、図書館が未発達のミャンマー国において、図書館支援を通じ、未来を担う子供たちが良質な本や資料に接する機会を増やし、情報を得る力、自ら考える力をつけることは、彼らの生涯にわたる学習機会の促進につながる(Goal4)。また、図書館における情報の整備・管理を支援することで、国民の情報アクセスを高めることは、健全な民主化の促進にも貢献する(Goal16)。</p> <p>本ビジネスにおける具体の貢献ロジックと開発効果は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 投入：当社の図書館支援及び運営の知見を持った専門人材と、そのノウハウ ② 活動：宗教文化省・新 NL、MOI・公共図書館など向けの図書館づくりコンサルティング、イベント、情報整理・システム構築支援など ③ 短期的効果：図書館の運営・人材の質向上、子供の図書館利用量増加、読書習慣の醸成など ④ 中長期的効果：ミ国への図書館づくり・運営ノウハウの移転、子供の図書館利用量増加、読書習慣の定着と発展など
10. ビジネス展開に向けた課題と対応方針	<p>企業機密情報につき非公表。</p>

案件概要図



ミャンマー国 日本の図書館支援ノウハウを活かした「課題解決型」子供図書館モデル構築のための案件化調査

株式会社 図書館流通センター(東京都)



対象国における課題

- ・ 現政府は図書館振興を掲げるが、図書館づくり・運営ノウハウや人材が失われ、担える主体が存在しない。
- ・ 暗記偏重型の教育が中心であり、自ら考える力の育みや読書の喜びに触れる機会が不足している。

提案製品・技術

- ・ 地域の社会課題を解決する図書館づくり
- ・ 啓発イベント・プログラムの企画及び開催(図書館を使った調べる学習コンクールを含む)
- ・ 図書館向け情報整理・編集(MARCデータベース・システム構築支援他)

本事業の内容

- ・ 契約期間:2019年4月～2020年6月
- ・ 対象エリア:ミャンマー国(ヤンゴン市)
- ・ 案件概要:ヤンゴン市内の新国立図書館において、日本における図書館支援の経験・ノウハウを活かした「課題解決型」子供図書館モデルをパイロット事業を通じて構築し、開発効果の検証及び横展開するビジネスモデルの策定を行うもの。



課題解決型図書館

実現を目指すビジネスモデル

- ・ 「課題解決型」子供図書館モデルの構築と展開に向けて、以下の二つのビジネスモデルを展開。
- ・ 新国立図書館に対して、子供図書館の企画や運営に対するコンサルティングサービスを提供。
- ・ 2024年夏にオープン予定の複合施設内(日系企業施工)における子供図書館の企画・運営。

ビジネス展開による対象国における課題への貢献

- ・ 日本での図書館支援・運営を通じて培ってきたノウハウや技術を通じて、子供達が地域課題に関する知識と考える力を習得できるようになる。
- ・ 本を読む楽しさを子供たちに伝える仕組み・場づくりを行い、図書館を通じて子供たちが情報を生きる力に変えていけるようになる。

2020年3月31日作成

第1章 本 JICA 事業の概要

(1) 本事業実施の背景

ミャンマー（以下、ミ国）では、2016年の国民民主連盟(NLD)政権の誕生後、「(教師や教科書からの情報の)暗記偏重型」から「考える力の育成」に教育改革が進んでいる。アウンサンスーチー国家最高顧問は教育における読書の重要性を度々強調し、「読書の意義は、世界には自分たちとは異なる文化や伝統、考え方があることを知り、私たちが同じではないと知ることである。幼い頃に読書習慣をつければ、その恩恵は、その子自身の一生、そして周囲にももたらされる」(2018年12月21日講演内容より)と述べている。

こうした流れを背景に、ミャンマー政府は社会の知的インフラである図書館の発展・振興を国家政策に盛り込み、全国における公共図書館の整備や新国立図書館（以下、新NL）の開館（2020年4月開館）を進めてきた。

しかし、軍事政権下においてミ国の図書館は衰退し、現在でも稀少な国の予算や図書館制度の不整備、限られた蔵書数といった問題から、図書館での子供たちの読書機会の広がりは見られていない。アジア財団と Myanmar Book Aid and Preservation Foundation (MBAPF) によるミ国の公共図書館の実態調査（2014年）によると、55,755の公共図書館が政府に登録されているにも関わらず、その1割にも満たない4,868の図書館しか実際に運営されていない。図書館当たりの貸出し数も月57冊程度であり、日本（17,500冊）の1%にも満たない。

また、軍事政権下に図書館づくりのノウハウや専門人材が失われ、図書館振興を担える知識を持った十分な主体が存在しないという人的リソースの課題もある。

こうした認識の下、当社が日本国内で約40年の図書館支援で培った経験やノウハウを活かし、ミ国が抱える課題を、「図書館」という場や機能を通じて解決する新たな図書館モデルの展開を目指して本事業を実施した。

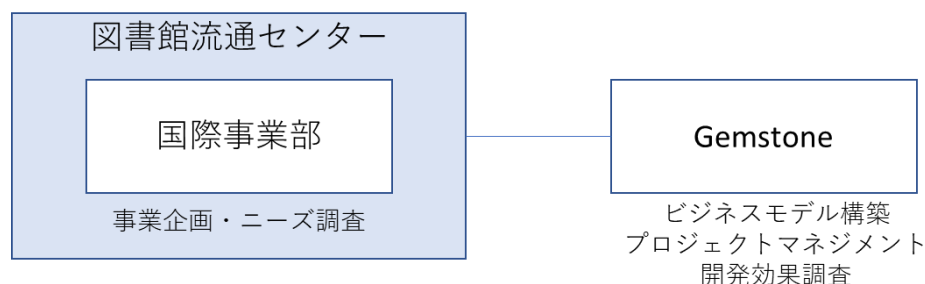
本事業は、民主的発展が期待されるミ国の中でも、未来を担う子供たちを主な対象として、一人一人が知る力を考える力へ、考える力を生きる力、自国の未来を創る力へと変えることができる図書館モデルを構築する基礎調査を目的としている。

(2) 本事業の達成目標

- a. 本ビジネスで対象とする、ヤンゴン市内の子供たちの課題・ニーズが設定され、その内容に応じた「課題解決型」子供図書館の開館・運営計画とビジネスモデルが策定される。
- b. 政府（宗教文化省、教育省、情報省等）、NLを始めとする関係機関、現地パートナーとの強い協力関係が構築される。
- c. 本ビジネスがどのようにヤンゴン市内の子供たちの課題解決に繋がるか、貢献ロジックが整理され、開発効果が推計される。

※報告の流れを考慮し、業務計画書と目標の順番を変更して作成

(3) 本事業の実施体制



提案法人である図書館流通センター（以下、当社）は、本調査事業の企画・ニーズ調査を主体的に担い、現地政府や現地実行パートナーとの関係構築や図書館制度・サービスに対する専門知識を活かした現地市場の分析も行った。補強である GEMSTONE は、本調査にビジネスモデルの構築やプロジェクトマネジメント、開発効果の検討を担い、調査実施に必要な資料整備なども行った。

(4) 本事業の実施内容及び結果

① 本事業の実施内容

※本事業における実施内容の詳細と実施結果は企業機密情報につき非公表。

② 本事業の達成目標の到達状況

- a. 本ビジネスで対象とする、ヤンゴン市内の子供たちの課題・ニーズが設定され、その内容に応じた「課題解決型」子供図書館の開館・運営計画とビジネスモデルが策定される。

背景：

ミ国では、携帯電話の普及によりインターネットでの情報取得が容易になる一方、子供の読書習慣の定着と発展が進んでいないという課題がある。その結果、子供たちの考え・学ぶ力の醸成に偏り・不足が生じており、今後のミ国の民主的発展の阻害要因ともなり得る。アジア財団の調査では、ミ国の子供 530 万人のうち 4%の世帯にしか家庭に子供用の本が置かれていない。アウンサンスーチー国家最高顧問は、「子供たちはコンピューターゲームやインターネットゲーム、ソーシャルメディアに多くの時間を浪費している。これらの技術の発展により、子供達の読書量が減少している」¹と警鐘を鳴らしている。

アウンサンスーチー国家最高顧問はまた、「5 人の子供が本を読んで 5 つの異なる視点が生まれるとき、彼らは自分達が同じではなく、またお互いが異なるということは誰かが良いまたは悪いということではないということを理解する。各人の思考を併せることで、より大きな視点で物事を捉えることが出来る。これが私が読書を薦め、図書館を支援し奨励する理由だ」

¹ AFP 通信（2016 年 1 月 17 日）<https://technology.inquirer.net/46274/myanmars-suu-kyi-bemoans-youth-wasting-time-online> 掲載サイトは inquirer。

²と語り、読書が子供の考える力を養う上で重要な影響を齎し、図書館はそれを実現する場所であることを指摘している。

ただし、現状では、子供やその家族が自発的に図書館に足を運び、読書を楽しむ習慣はミ国ではまだ確立していない。当社は日本で培った図書館サービスのノウハウを投入し、子供達が読書を通じて主体的に考え・学ぶ環境を創り出し、読書習慣の定着と発展へ繋がる「課題解決型」子供図書館のモデルを構築するために、本事業の設計を行った。

結果：

本調査を実施した結果、ミ国における図書館の現状や制度について、以下が明らかになった。

- ・ ミ国政府・図書館関係者において、図書館振興に関する経験・ノウハウが不足している。
- ・ 専門的なトレーニングを受けた図書館司書が不足しており、本を読む楽しさを子供たちに伝える仕組み・場づくりが図書館側で十分に行われていない。
- ・ 子供が楽しめる良質な絵本が不足している。仏教の教えを説いた絵本などが保護者には人気であるが、子供たちが喜んで読める絵本が不足している。

こうした現状の中から、子供の読書習慣の定着と発展という課題解決に向けて当社の経営資源を活かして取り組めるものとして、①人（図書館スタッフ・司書育成）、②書籍（良質な絵本等）、③技術、の3つの軸を定めて課題解決型図書館の実現に向けた事業構築を行うことにした。

本調査事業ではまず、①と②について、移動型図書館活動の実施を通して、当社のサービスや日本の絵本がミャンマーにおける子供達・保護者のニーズに対して貢献可能かを検証するパイロットプロジェクトとして、移動型図書館活動をヤンゴン市内4か所（書店、児童養護施設、国際交流基金、公立小学校）で実施した。なお、③については、調査をする中で明確に見えてきた軸であり、引き続き調査を行っている。

移動型図書館活動では、のべ250名の3歳から12歳の子供たち、及びその保護者に参加頂いた。この結果、当社の専門人材が提供する図書館運営やプログラムや、日本の絵本が現地で価値あるものとして提供可能であり、受け入れて頂く事ができると確信が深まった。以下に2点に分けて説明する。

- 人材：日本の図書館現場で磨かれてきた図書館プログラムの有効性

移動型図書館活動では、日本の児童図書館で子供向けの図書館プログラムを実施して来た経験を豊富に持つ当社社員が、ミャンマー語での日本語絵本の読み聞かせ、跳ねるカエルのおも

² The Global New Light of Myanmar (2018年12月21日)

<https://www.globalnewlightofmyanmar.com/speech-delivered-by-state-counsellor-daw-aung-san-suu-kyi-at-all-who-can-read-should-read-campaign/>

ちやを作る紙工作ワークショップを実施し、日本語絵本（ミャンマー語訳のシール付き）の自由閲覧を行った。イベント中は当社スタッフの動きから目を離さず、プログラム終了時まで多くの子供たちが夢中に本を読む姿が見られた。

当該活動を通して、文化や社会的条件が異なるミ国においても、当社水準のプログラムが子供たちに喜んで受け入れられることが明らかになった。ほぼ全ての参加者が、読み聞かせ・ワークショップを高く評価した。アンケート取得できた範囲では、書店での開催時の11名全員、国際交流基金での開催時の10名が自由記述で高い評価、もしくはこのようなプログラムを頻度高くまたは定期的に開催して欲しいという趣旨の記述を行った。幅広い年齢層の参加があったことから、「ぴょん」（対象年齢：0～3歳）、「ぐりとぐらのおきやくさま」（3歳から）、「桃太郎」（5・6歳から）など、それぞれの年齢層にあった本を用意した。結果、それぞれの年齢層の子供が夢中になって読み聞かせに参加し、文字がまだ読めない低年齢の子ども達も当社社員に絵本を持ち寄り、読み聞かせを求める姿が見られた。以下に、参考までに年齢別に好きな絵本を聞いたアンケート結果から、自由閲覧の中から子供達が一番好きな本として選んだ絵本と理由を示す。

タイトル	出版社	好きな理由
ぼうしとったら	学研	面白いから (6歳)
おおきなかぶ	福音館書店	おおきなかぶを抜くために次々と人が出てきて、力を合わせて抜くことが出来たから (8歳)
くれよんのくろくん	童心社	塗り絵が好きだから (4歳)
こんとあき	福音館書店	こんとあきの友情がとても素敵だから (6歳) きつねの“くん”が好きだから (6歳)
どんぐりむらのぱんやさん	福音館書店	親のために子供がパンを焼くのを手伝っていたから。パンを焼くのは挑戦で、私は挑戦が好きだから (7歳)
ねずみくんのちょっき	ポプラ社	ねずみくんは自分のものをシェアするから、優しいから (4歳) 面白いから (6歳)
ぴょーん	ポプラ社	絵を見るのが好きだから (4歳)
ほげちゃん	偕成社	面白いから (8歳)
わたしのワンピース	こぐま社	絵を見るのが好きだから (4歳)
どうぞのいす	ひきかたチャイルド	絵本の表紙に大好きなウサギの絵があったので、この本を選びました (3歳)
おいしいはんぶんこ	岩崎書店	面白いから (6歳)
おかしになりたいピーマン	岩崎書店	ストーリーが好き、絵が多いのが好き、ピーマンがかわいそうなので (7歳)

(注) 保護者が子供に聞いてアンケートを記述。

保護者からは「子供に読書に関心を持ってもらうためには読み聞かせは良い方法」、「このようなワークショップがよく行われていれば、子ども達も図書館にもっと行きたくなると思う」など、当社のサービスが読書習慣の確立や図書館利用の促進に有効であることを評価するコメントを頂いた、また、当社の経験からも、ミ国においても、日本と同じように当社プログラム参加者の子供たちが目を輝かせる様子を見ることができ、価値を提供できる確信が高まった。

貧困家庭出身で読解力が弱い子供達が多い児童養護施設での実施においても、多くの子供達が夢中になって本を読む姿が見られた。施設の職員からも、「先に読み聞かせをしてくれたので、自然と子供達も絵本に興味を持つことが出来、自ら本を手にとって読んでいた。普段あまり本を読まない子供たちが、読み聞かせや絵本にかじりついている姿が印象的だった」などの

声を頂き、読み聞かせが読書の推進に有効であることが示された。

図書館利用対象者である子供たち・保護者たちが、当社による移動型図書館活動を非常に喜んでくれ、強い関心を示してくれた。日本の図書館で当社が実施している高水準の図書館プログラムを初めて経験した方々も多く、図書館が実施しえるプログラムに関するイメージを高めることでミ国の人々の図書館サービスに関する潜在的ニーズを掘り起こし、価値あるサービスを提供できると確信した。今回の移動型図書館活動の実績とミャンマー語のプログラム実施のノウハウなどを今後の新 NL や複合施設でのプログラム実施に活かしていく。

- 書籍：日本の高品質な絵本に対する高評価

日本の絵本に対する高いニーズが確認できた。移動型図書館活動では、日本の絵本 70 冊にミャンマー語訳をつけた自由閲覧を行ったが、多くの子供たちがプログラム時間の終了時まで夢中で本を読む姿が見られた。また、保護者からは本を買いたいという声が多く寄せられた。読み聞かせを行った本がミャンマー語で読めるのであれば購入したいかを聞いたアンケートでは、同質問項目に回答した 13 名全てが「購入したい」と回答した。「仕掛け絵本、色々な形をした絵本などを買いたいので、販売もして頂きたい」などの声も聴かれた。

自由閲覧を行った絵本については、参加者から拒否反応が示された絵本はなかった。ミャンマーの伝統的な物語の中には、椰子の実から生まれた子供が仲間と鬼を退治に行く桃太郎に類似したストーリーを持つ物語（カチン州に伝わる「やしたろう」など、日本の物語と類似性を持つものもある。新 NL 内のショールームでは、こうした両国の物語の類似性を示す展示などを行い、日本の文化やコンテンツに親しみを持っていただく企画を検討する。

なお、併せて本事業で実施した現地の出版社や翻訳者へのヒアリングでは、仏教の教えを説いた絵本などが保護者には人気であるが、子供たちが喜んで読める絵本が不足しているとのコメントが多く聞かれた。

- b. 政府（宗教文化省、教育省、情報省等）、NL を始めとする関係機関、現地パートナーとの強い協力関係が構築される。

背景：

当社は、宗教文化省の NL の担当局長や館長との関係構築に努めてきた。本調査事業開始前の 2016 年より、事前調査としてミ国を 8 回訪問し、関係省庁、NL、複数の現地関連団体などとの対話、現地ニーズ調査を行ってきた。また、2017 年は NL 職員の本邦研修受入れ、2018 年はミ国において開催された東南アジア図書館フォーラムでの登壇などを通じて図書館関係者との関係構築を進めてきた。本事業においては、NL との連携具体化・開始準備の為の相互理解、ニーズの深掘り、並びに別省庁であり公共図書館を管轄する情報省（以下、MOI）との関係構築及びニーズ確認を目指した。

結果：

ミ国政府の宗教文化省(NL を管轄)及び MOI (公共図書館を管轄)の担当局長をはじめとした図書館責任者とのコミュニケーション及び内部施設・業務に入り込んでの現地調査を繰り返し、現状を明確に把握し、ニーズを確認することができた。そのプロセスを通して、宗教文化省及び傘下の NL の担当局長並びに NL 図書館関係者、MOI の担当局長及び公共図書館管轄関係者との強い協力関係を構築することが出来た。

既述の利用者と主たる運営者である政府の双方のニーズを踏まえ、①人(図書館司書育成)、②書籍(良質な絵本)、③技術の軸で課題解決型図書館の事業構築を行い貢献できる確信が持てた。具体的には、当社の人材が持つイベント運営に関するノウハウや日本で培ってきた図書館運営の実績に基づくコンサルティング、図書館人材の育成ノウハウ、絵本など良質な日本コンテンツを現地に提供する上で必要な出版社などとの強い関係性、電算化技術などを当社が持つ経営資産を総合的に活かした事業を通じてミ国に貢献をしていく。本事業で把握したニーズに基づき、当社のノウハウが活かせるサービスの形、ビジネスモデルを検討した。

- c. **本ビジネスがどのようにヤンゴン市内の子供たちの課題解決に繋がるか、貢献ロジックが整理され、開発効果が推計される。**

結果：

図書館が未発達のミ国において、図書館支援を通じ、未来を担う子供たちが良質な本や資料に接する機会を増やし、情報を得る力、自ら考える力をつけることは、彼らの生涯にわたる学習機会の促進につながる(Goal4)。また、図書館における情報の整備・管理を支援することで、国民の情報アクセスを高めることは、健全な民主化の促進にも貢献する(Goal16)。

本ビジネスにおける具体的な貢献ロジックは以下の通りである。

- ① 投入：当社の図書館支援及び運営の知見を持った専門人材と、そのノウハウ
- ② 活動：宗教文化省・新 NL、MOI・公共図書館など向けの図書館づくりコンサルティング、イベント、情報整理・システム構築支援など
- ③ 短期的効果：図書館の運営・人材の質向上、子供の図書館利用量増加、読書習慣の醸成など
- ④ 中長期的効果：ミ国への図書館づくり・運営ノウハウの移転、子供の図書館利用量増加、読書習慣の定着と発展など

(5) ビジネス展開の見込みと根拠

- ① ビジネス化可否の判断

ビジネス化は可能であると判断した。

② ビジネス化可否の判断根拠

移動型図書館活動や、ミャンマー国政府をはじめとした関係者との協議・現地調査を通して、当社のノウハウ・人材・サービス提供に対するニーズの所在や提供できる価値が確認された。また、ビジネス展開の全体像と個別サービスのビジネスモデルが形成された。

第2章 本ビジネスの概要

(1) ビジネスモデルの全体像

① 現時点で想定されるビジネスモデルの全体像（図、説明書き等）

最終的な「課題解決型」子供図書館モデルは、調査前に提示した「課題解決型」子供図書館モデルは、(1) 第一号モデル：新 NL 向けコンサルティング・人材育成、(2) 第二号モデル：複合型施設を対象にした図書館運営を軸に構築する。本調査・検討を踏まえ、実現の初期モデルが形成され、実行に移されることとなった。

② 本ビジネスに用いられる製品・技術・ノウハウ等の概要

当社は、1979年の図書館向け書籍流通に始まり、1999年よりPFI（Private Finance Initiative）にて図書館運営を行ってきた日本最大の図書館総合支援企業である。多くの図書館の課題解決を通じて培ってきた多様な技術・ノウハウの中でも、本事業では特に、人材、技術、書籍の軸を通じて現地の課題解決に貢献する道筋が見えてきた。こうした分野を軸に、次の3つの領域での現地化・活用を想定する。

● 地域の社会課題を解決する図書館づくり

➤ 図書館づくり・業務改革コンサルティング【人材】

当社は、本の所蔵・貸出という表面的な機能を超えて、その地域や国の社会課題を解決する図書館づくりを行っており、本事業において現在のミ国が直面する社会課題解決に貢献する図書館づくりを進める。提案技術の提供の形としては、図書館づくり・業務改革のコンサルティングという形で進める。

当社の過去実績としては、例えば、当社が運営管理を行う神奈川県大和市の文化創造拠点シリウスにおいて、大和市が掲げる「健康都市やまと」の実現に向けて、健康づくりや最新の医療情報の取得に役立つ図書を集めたコーナーを設置しているほか、健康に関連する展示やイベントの実施、利用者が自身の健康状態を計測し健康相談が出来るコーナーの設置など、地域課題である市民の健康増進に向けた図書館づくりを行っている。シリウスの累積年間来館者数は300万人に上り、多くの市民が利用している。

また、同じく当社が指定管理者を務める兵庫県明石市のあかし市民図書館では、市が掲げる「本のまち 明石」の実現に向けて、本を介して家庭・学校・地域を繋げる取り組みを行っている。具体的には、トランプのようにカードを引き、選んだカードに書かれたお題のテーマ（例：子供の頃に読んだ一冊）を人に話すことで、読書経験を通じた自己紹介を行う「たこ文庫」（2019年グッドデザイン賞受賞）など、市民同士が繋がり地域がひとつになる独自の活動を展開している。

➤ 人づくり（ライブラリアン育成等）【人材】

当社は図書館運営に必要な人づくりを幅広く行っており、これは産業自体がこれから拡

大するミ国においては特に重要である。コンサルティングに加えて、人材育成を目的としたプログラム提供も行う。当社はライブラリアンの行動目標を3点（「明るく元気でいよう」「高いホスピタリティを発揮しよう」「幅広い知識と高度な専門性を身につけよう」）掲げ、これらが全てのサービスの基本であると考え、研修を実施している。研修内容も新人研修から館長養成講座まで、ライブラリアンのレベルに適した研修を提供している。

- 啓発イベント・プログラムの企画及び開催（図書館を使った調べる学習コンクールも含む）
【人材】

当社は図書館振興の為に幅広いイベントや活動を実施しており、ミ国の実情や利用者に合わせて現地化して実施する。具体的には、NL連携でのプログラム、日本の企業・団体と連携してのイベント、日本で実績のある「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催などを進める。

当社は国内では、例えば読み聞かせや手作りおもちゃ制作ワークショップ等を各地の図書館で活発に実施している。また、学校教育や生涯学習の場として、多くの方が図書館を活用することによって生きる力を身につけ、それにより図書館が振興することを目的とした「図書館を使った調べる学習コンクール（主催：図書館振興財団）」を支援している。本コンクールは、1997年から計21回、一回で10万人を超える応募を得て(2018年)実施され、コンクールは、知的好奇心、情報リテラシー、読解力、思考力、言語力が磨かれる学びの機会となっており、一人一人の人生にも影響を与えている。

- ③ 上記②の国内外の導入、販売実績（販売開始年、販売数量、売上、シェア等）

現在、当社は、500超の公共図書館を運営受託し、国内公共図書館の88%（2,898館）が当社の図書館向け書誌情報管理システム（TRC MARC）を使用している。また、図書館づくりコンサルティングにおいては2004年から2020年（実施年度もしくは開館年ベース）間で106件の実績を有する（2019年5月現在）。

（2）ターゲットとする市場・顧客

- ① ターゲットとする市場の概況

子供図書館の利用は、ヤンゴン市周辺に住む小学生以下が主な対象となる。国連人口基金³によると、同市内の人口500万人のうち約3割が小学生以下であるため、約150万人が対象となる。なお、市内には2千程度の図書館が登録されているが、実際に稼働しているのは約1割であり⁴、住民に十分なサービスや機会が提供されていると言い難い。図書館向けサービスの市場としては、2016年の政権交代以降、民主化を推進するミ国では、それを支える知的インフラとしての図書館発展へのニーズが高い一方、軍事政権下に図書館づくりのノウハウや人材が失われており、担え

³ 国連人口基金ミ国レポート <https://myanmar.unfpa.org/sites/default/files/pub-pdf/Yangon%20Region%20Census%20Report%20-%20ENGLISH.pdf>

⁴ アジア財団によるミ国における公共図書館の実態調査（2014年）

<https://asiafoundation.org/resources/pdfs/MyanmarLibrarySurvey.pdf>

る組織が存在しない。

② 本ビジネスに対する現地ニーズ

アウンサンスーチー国家最高顧問、ウィンミン大統領を始め、ミ国政府は図書館発展・振興の方針を打ち出し、その政策として、図書館法制定、新NL開館、公共図書館の整備が進められている。宗教文化庁局長からは、「今まさに貴社のような専門性や経験が必要であり、協業に感謝している」と伝えられるとともに、「新NLで技術・ノウハウを紹介すれば（今後の市場拡大に伴い）民間セクターからのニーズも増えるだろう」とミ国における今後のビジネス機会の大きさが示されている。

③ 本ビジネスの対象とする顧客層とその購買力

ビジネスモデルで示したように課題解決型子供図書館の顧客は政府及び複合施設の運営企業を想定している。特に現地政府については予算が限定的なことから、柔軟かつ長期的な視点に立った提案内容を構築していくことが必要と思われる。

④ 必要なインフラの整備状況

必要なインフラは、図書館運営の場所と最低限度の電力となる。また、資料のデータベースや電子図書館の運営にはインターネット環境が必要となる。当初は、新NL内や複合施設内を想定しており、問題はないと判断する。横展開は、インフラ状況を確認しながら対応していく。

⑤ 競合する企業/製品/サービス等の状況

国内における競合は存在しない。現地においても当社のような総合的な図書館サービス事業を展開している競合は存在せず、新たに市場を開拓していくことが課題となる。

(3) 現時点で想定する実施体制

① バリューチェーン計画

企業機密情報につき非公表。

② 本ビジネスの実施体制

企業機密情報につき非公表。

(4) 想定されるリスクとその対応策

① 許認可等取得の必要性

- 図書館運営は現法上、外資の実施が可能（ただし、MOIに申請が必要。現地の弁護士経由でMOIには事前説明を行っており、特段問題は指摘されていない）。

② 許認可以外のリスク対策

- 必要なインフラは、図書館運営の場所と最低限度の電力となる。また、資料のデータベース

や電子図書館の運営にはインターネット環境が必要となる。当初は、新 NL 内や複合施設内を想定しており、問題はないと判断する。横展開は、インフラ状況を確認しながら対応していく。

- ③ 環境・社会・文化・慣習面（ジェンダー、カースト、宗教、マイノリティ等社会的弱者）のリスク対策、配慮
 - 環境・社会・文化・慣習面での大きなリスクは想定していない。他民族・多宗教国家であるの事情に配慮し、新 NL 内のショールームでの展示内容や課題解決型図書館の蔵書内容は特定グループを排除したものにならないように留意する。

(5) 現時点で想定する事業計画

- ① 収支計画
企業機密情報につき非公表。
- ② 収支計画の根拠およびビジネス展開のスケジュール
企業機密情報につき非公表。
- ③ 初期投資額及び投資回収見込時期
企業機密情報につき非公表。
- ④ 資金調達手段の見込み
企業機密情報につき非公表。

(6) 本ビジネスの提案法人における位置づけ

- ① 本ビジネスの経営戦略上における位置づけ
企業機密情報につき非公表。
- ② 既存のコアビジネスと本ビジネスの関連（活かせる強み等）
企業機密情報につき非公表。
- ③ 本ビジネスの社内での検討状況
企業機密情報につき非公表。

(7) 本 JICA 事業終了後のビジネス展開方針

- 企業機密情報につき非公表。

第3章 SDGs 達成への貢献可能性

(1) 対象国・地域における課題

① 背景・導入

ミ国では、2016年の軍政から国民民主連盟(NLD)への政権交代以降、外国投資誘致など経済政策が進み、海外政府からの支援も受け、学校建設など教育インフラの整備が急がれている。しかし、軍事政権時代から続く学校教育は、教師や教科書から一方的に情報が与えられる暗記偏重型であり、子供たちの考える力は育成されていない。また、初等教育レベルでは高い就学率を誇るが、学年が進むにつれて中退率が上昇し、最終学年では23%に達するなどの課題がある（JICA ウェブサイト）。

② 図書館利用者の課題及びニーズ

図書館利用者の課題は、1. 学校外学習の場やコンテンツ（本）へのアクセスが充分でない、2. 読書習慣・利用習慣が無い、3. 本・コンテンツの質が充分でない、という3点に集約される。本事業を通して、課題を確認すると共に、既述の通り良い本・コンテンツやプログラム・場があれば積極的に活用したいという潜在ニーズが確認でき、上記3つの課題の解決への貢献が求められている。

図書館は本来、学校外で子供たちの学習を支援する役割を担うが、国の予算削減等から開館時間が短く利用が制限されていたり、図書館が保有する本が限られていたり、子供達に十分な機会が提供できていないと言いきつ状況が続いてきた。アジア財団と MBAPF の調査においては、79%の図書館利用者が「本や雑誌をもっと読むことを子供に促すために図書館は有効な場になりえる」と回答している一方、子供用の図書を蔵書に持つ図書館は全体の45%しかなく、図書館の場においても子供が本と触れ合える機会は限られてしまっている現状がある。

また、図書館は全ての人に対して情報のアクセスを保証する民主社会の開かれた知的インフラであるが、市民の間においても図書館の利用が進んでいない。既述のアジア財団と MBAPF の調査では、図書館当たりの貸出し数は月57冊程度であり、日本（17,500冊）の1%にも満たない状況となっている。アジア財団によれば、ミ国の子供530万人のうち4%の世帯にしか家庭に子供用の本が置かれていない。

本調査における現地出版関係者へのヒアリングや書店視察からも、仏教の教えを説いた絵本などは多数あるが、一般的な子供向けの絵本の種類が少ない現状が明らかになった。海外からの輸入本の販売を行う企業の代表者からも、ミ国では児童向け絵本が不足しており、インドから英語の良質な絵本を輸入して販売しているとのコメントがあった。日本の児童図書館に勤務する当社社員も、現場視察の結果、「日本のような多様な絵柄が少ない」との気づきを得た。

図書館のサポート団体の創業者に対するヒアリングでは、作家が個人でやっていて協業が進んでいないこと（例：イラストと文の得意な人が協業するなどが少ない）が絵本の質が上がらない一因であるとの指摘があった。また、作家とイラスト作家に新たに依頼するよりも、海外の絵本を翻訳した方が安価に済むため、出版社が海外作品の出版を優先することが課題との認識も示した。

③ 図書館運営主の課題及びニーズ

上記利用者の課題に応える立場にある、図書館運営主(本ビジネス対象は宗教文化省、MOI、複合施設運営主)の課題は、1. 整備・振興、読書習慣の定着と発展を進めているが、ノウハウや経験が不足している、2. リソース(人・モノ・カネ)が不足している、3. 質の高いコンテンツ・教材が不足している、という3点全てもしくは一部である。本事業を通して、現状のできている事や課題を確認すると共に、より利便性高く、国民・市民に使ってもらえるものとしたい、という運営主のニーズや意志が確認できた。

(2) 本ビジネスを通じたSDGs達成への貢献可能性

① 貢献を目指すSDGsのゴール・ターゲット

ゴール 4:「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
ターゲット 4.7:「2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」

ゴール 16:「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」

ターゲット 16.10:「国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する。」

② SDGsへの貢献可能性

● ゴール4及びターゲット4.7への貢献

上記(1)のとおり、ミ国では教師や教科書から一方的に情報が与えられる暗記偏重から子供たちの考える力を育成する教育への転換が課題となっている。また、中退率も高く、子供たちの継続的な学習機会が保証されている状況とは言えない。

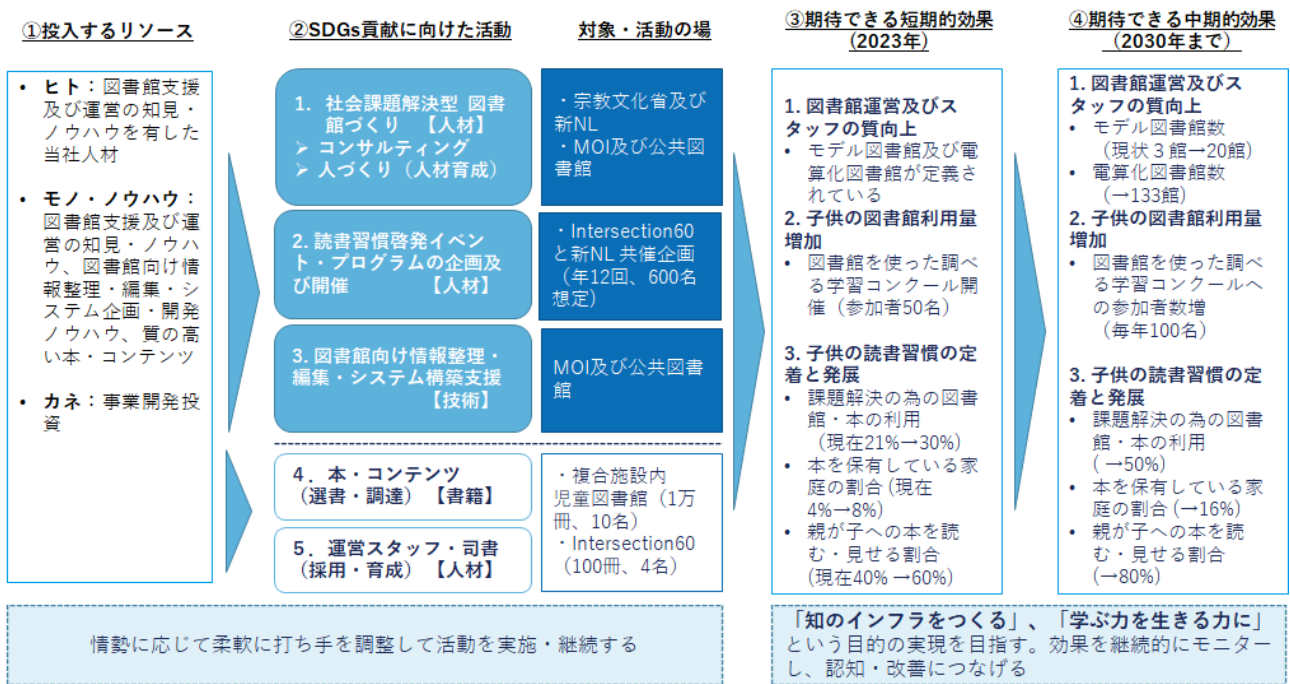
これに対して、図書館は利用者の自立的な学びを支援する全ての人に開かれた場であり、公教育を補完する役割を担っている。当社が長年の図書館支援・運営を通じて培ってきたノウハウや技術を総動員し、特に未来を担う子供たちに焦点を当て、彼らが良質な本や資料に接する機会を増やすことを通じて読書習慣の定着と発展に貢献する。読書は以下のアウンサンスーチー国家顧問の言葉にもあるように世界に多様な考え方があることを知る手段であり、お互いの思考を併せることでより大きな視点で物事を考える力を養うことを可能にする。こうした自ら考える力をつけることは、彼らの生涯にわたる学習機会の促進につながり、ゴール4:「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に貢献する。

さらに、アウンサンスーチー国家最高顧問は子供教育における読書の重要性を度々強調し、「読書の意義は、世界には自分たちとは異なる文化や伝統、考え方があることを知り、私たちが同じではないと知ることである。幼い頃に読書習慣をつければ、その恩恵は、その子自身の一生、そして周囲にももたらされる」(2018年12月21日講演内容より)と述べている。この言葉にあるように、読書はゴール4.7が掲げる文化多様性の尊重や、ひいては平和及び非暴力的文化の推進に繋がり、同ゴールの達成に貢献する。

● ゴール16及びターゲット16.10への貢献

上記(1)で記載の通り、図書館は全ての人に開かれた民主社会の知的インフラである。この点において、図書館はターゲット16.10が掲げる「情報への公共アクセス」をまさに保障する機関であり、軍事政権から基本的自由を尊重する民主社会への移行に貢献する。特に子供たちが情報に自由にアクセスし、それを元に自ら考える力をつけることは、民主社会の根底にあるや自立した市民の育成に繋がる。

以下に期待できる効果をロジックモデルと目標とする指標を用いて示す。



本ビジネスにおける具体の貢献ロジックは以下の通り。

- ① 投入： 当社の図書館支援及び運営の知見を持った専門人材と、そのノウハウ
- ② 活動： 宗教文化省・新NL、MOI・公共図書館など向けの図書館づくりコンサルティング、イベント、情報整理・システム構築支援など
- ③ 短期的効果： 図書館の運営・人材の質向上、子供の図書館利用量増加、読書習慣の醸成など
- ④ 中長期的効果： ミ国への図書館づくり・運営ノウハウの移転、子供の図書館利用量増加、読書習慣の定着と発展など

③と④の子供の読書習慣の向上については、以下の指標を具体的な目標とする。

- 日常の課題解決のために情報を入手する先に関して、「図書館」または「本」と回答した図書館利用者の回答比率を現行の21%から短期（2023年）では30%に、中期（2030年）では50%に向上させる（現状のデータは、アジア財団とMBAPFのMyanmar Library Survey〔2014年1月発表〕を参照）。
- 家庭での本の保有比率を現状の4%から短期（2023年）では8%に、中期（2030年）では16%に向上させる（現状のデータは、アジア財団ウェブサイトを参照）
- 親子間の活動に関して、「子供に本を読む／絵本を見せる」の回答比率を現状〔2016年11月～2017年2月調査〕の40%代半ば（※具体的な比率がグラフに記載されていない）から短期（2023年）では60%に、中期（2030年）では80%に向上させる（現状のデータは、UNICEFのMyanmar East Asia-Pacific Early Child Development Scale〔2017年6月発表〕を参照）。

③ 波及効果

本ビジネスの波及効果として、関連・周辺産業である出版産業、書籍等の流通産業、知の情報整理・編集の産業への波及効果が期待される。また、フォーマル教育と並び、ノンフォーマル教育及び自主学習の場やリソースとしての選択肢が圧倒的に増えることが期待される。

加えて、本ビジネスを通して「知のインフラ」としての図書館を整備する事は、その他のSDGsゴールの達成にも貢献する。国際図書館連盟（IFLA）は「すべての人にアクセスとチャンスをつなぐ 2030 アジェンダに図書館はどう貢献するのか」⁵と題した資料の中で、識字率やデジタルリテラシーの向上、情報ギャップの縮小など図書館の効果を挙げ、「図書館とそれがもたらす情報アクセスはSDGs全体の成果向上に貢献する」と結論づけており、各ゴールについて図書館が実際に貢献した事例を列挙している。これらの事例では、図書館がオンライン情報にアクセスできない医療従事者向けに医療の学術情報を提供した事例（ゴール3）や図書館が低開発のコミュニティに文化・教育スペースを提供した社会開発の事例（ゴール11）などが紹介されており、SDGsの目標達成に向けて図書館が様々な役割を果たしていることが示されている。

（3） JICA 事業との連携可能性

本ビジネス展開において想定される JICA 事業は以下の通りである

① 次フェーズ展開「普及・実証・ビジネス化事業（SDGs ビジネス支援型）」

現在推進中のミ国政府向けビジネスにおいて、当社ノウハウ・技術の仮導入を通じた実証が必要になっている。全国の図書館で継続的に使用して頂くためには、MOI に対し、「課題解決型」子供図書館モデルが現場運営ニーズに対して有効性があり適合していることを実証し示すことが不

⁵国際図書館連盟「ACCESS AND OPPORTUNITY FOR ALL How libraries contribute to the United Nations 2030 Agenda」

<https://www.ifla.org/files/assets/hq/topics/libraries-development/documents/access-and-opportunity-for-all.pdf>

可欠である。

当社自己投資にて推進するが、本案件化事業同様に実証フェーズにおいても JICA による信用力、ノウハウ、リソース面での関与を頂く事でビジネス化を加速させたい。

② 研修事業

ミ国図書館運営スタッフ・館長、政策意思決定者らの本邦受入研修を通して、ミ国ノウハウの底上げに繋げる。当社は京都大学との連携にて、2017年7月に当社並びに当初が指定管理を務める日本での先進図書館、一般的な図書館、国立国会図書館等への視察、当社人員による講義等を組み合わせた本邦受け入れ研修を行った実績を有する。また、同年1月にミ国 NL 館長(当時)を本邦へ受け入れ、上記図書館に加えて当社の本の装備・物流拠点である新座ブックナリーの受入研修を実施している。その際に構築された関係性が本ビジネスの展開につながっているという側面もある。公益と当社ビジネスへのメリットを両立させる形で実施したい。

③ 技術協力プロジェクト

現在、教育分野において、ミ国政府と JICA が注力しているプロジェクトとして「初等教育カリキュラム 改訂プロジェクト (通称 CREATE)」がある。本プロジェクトの目標達成に学校図書館の整備の側面で参画・連携の可能性はある。JICA 及びプロジェクト運営主体と継続協議を行う。

「ミ国における図書館整備事業」としてのプロジェクト化は、当社及び MOI らが強い関心を持つが、JICA 事務所との協議で現時点では上記プロジェクトが注力対象であり、別技術協力プロジェクトの組成の可能性は高くないとの見解を得ている。

④ その他 (現地における連携)

現地における読み聞かせイベントにおける協業、Intersection60 での展示・協賛などでの連携が想定される。また、JICA ボランティアとの連携も可能性がある。例えば、ミ国の図書館作り、運営に JICA ボランティアが従事し、その方に当社ノウハウ・技術を活用頂く等が可能性がある。

以上

Summary Report

Myanmar

SDGs Business Model Formulation Survey with the Private Sector for Creating the Problem- solving Library for Children

May, 2020

Japan International Cooperation Agency

TRC Library Service Inc.

<Notes and Disclaimers>

- This report is produced by the trust corporation based on the contract with JICA. The contents of this report are based on the information at the time of preparing the report which may differ from current information due to the changes in the situation, changes in laws, etc. In addition, the information and comments posted include subjective judgment of the trust corporation. Please be noted that any actions taken by the users based on the contents of this report shall be done at user's own risk.
- Neither JICA nor the proposed corporation shall be responsible for any loss or damages incurred by use of such information provided in this report.

1. BACKGROUND

TRC Library Service Inc (TRC, hereafter) conducts this survey aiming to formulate business model of the new library and library services which contribute to Myanmar's development challenges.

In Myanmar, educational reform is under its way since 2016 since National League for Democracy (NLD, hereafter) took office. The reform aims to shift Myanmar's educational system from memorization of information through teachers and textbooks to foster the ability to think.

In "Myanmar public library master plan" created by working group made up of librarians, government officers and related organizations in 2016, Myanmar government laid out goals to develop and promote libraries to be an intellectual infrastructure for the society. Along with this direction, the government promotes development of public libraries and opening of the new national library in Yangon.

However, various challenges exist for stakeholders including government and private sector realize this goal. This is mainly due to the policy and operation of the past regime. Libraries and library culture in Myanmar had been fallen into decline. Even today, opportunity for children to read books in libraries are limited due to limited development of library institutions and services. The core challenge behind is limitation of professionally trained human resources and organization with related know-how/ knowledge, which were redacted and lost in the past decades. And, therefore, technology and goods such as books are limited to realize the development of libraries in Myanmar.

2. OUTLINE OF THE PILOT SURVEY FOR DISSEMINATING TECHNOLOGIES

(1) Purpose

Business model for "problem-solving" children's library is formed to contribute to development of reading habits of children in Myanmar.

It is true that the spread of mobile phones made it easier to obtain information through the Internet. However, there remains a challenge in developing reading habits in children. Aung San Suu Kyi, the state counselor, said "Now our children waste a lot of their time on computer games, Internet games and social networks. Children read less because the use of technology has increased,"⁶. According to the Asia Foundation study, only 4% household of the 5.3 million children in Myanmar have children's books in their homes⁷.

Aung San Suu Kyi, the state counselor, also said, "When five children read a book and have five different views, they'll have an understanding that they are not the same and being different doesn't

⁶ AFP (January 17, 2016) <https://technology.inquirer.net/46274/myanmars-suu-kyi-bemoans-youth-wasting-time-online>

⁷ Asia Foundation "Myanmar Library Survey" (2014)
<https://asiafoundation.org/resources/pdfs/MyanmarLibrarySurvey.pdf>

mean one is good, one is bad. Combining all the thoughts will make them see things in a bigger way. This is why we encourage reading. That is why we are supporting and encouraging libraries."⁸, stating that reading has an important impact on children's ability to think. And, libraries are places to foster it.

However, in Myanmar, habit of children to go to libraries to enjoy or learn from reading has not been established as a degree of “social custom” yet. TRC aims to play a role to increase and develop this habit which enhances children's thinking and learning ability. Thus, it will strengthen a fundamental of democratic development of the country.

By investing the know-how cultivated in Japan, TRC will support libraries in Myanmar to become attractive places for learners, especially for children. TRC will create "problem-solving" children's libraries that provide environment where children can increase and develop their reading habits through active and joyful reading, learning, and thinking.

(2) Activities

To achieve the purpose above, TRC determines (a) human resource, (b) books, and (c) technologies are the three key axis of TRC in building its problem-solving library business model in Myanmar.

In this survey project, as for (a) and (b), TRC conducted library programs and events at four locations in Yangon (bookstore, children's care facility, the Japan Foundation, and public elementary school). TRC implemented this activity as a pilot project to verify whether its library programs and Japanese picture books can contribute to the needs of children and parents in Myanmar. As for (c), TRC visited and met stakeholders to learn about the current status. TRC continues to make its technologies fit to the local operations.

<Library programs and events overview >

The programs and events were held by TRC employees who have a wealth of experience in implementing library programs for children in Japanese children's libraries. They performed story-telling of Japanese picture books in Myanmar language and held paper craft workshops to make frog toys. In addition, they brought and displayed 70 Japanese picture books with stickers of Myanmar translations for children to read freely. In total, 250 children between the ages of 3 and 12, and their parents have joined and enjoyed these activities.

(3) Information of Product/ Technology to be Provided

TRC will deliver following technology, know-how, and services by adjusting to local needs and

⁸ The Global New Light of Myanmar (December, 21st, 2018) <https://www.globalnewlightofmyanmar.com/speech-delivered-by-state-counsellor-daw-aung-san-su-ki-at-all-who-can-read-should-read-campaign/>

operation.

- Support developing “Problem-solving” libraries to solve local social issues

- Consulting for library development and operation [Human Resources]

TRC has been developing libraries that contribute to solve social issues in regions and the country. For example, TRC supported development of Yamato city through the consulting service. This library holds “health” as main theme, and puts related equipment, books collections, events, and so on. The library attracts 3 million people per year and keep contributing to local health.

TRC consulting covers the basic functions of the libraries such as book collection management and lending books. In addition, TRC also provides consulting service to help develop libraries to solve local issues as this case shows.

Together with local counterparts and partners, TRC will support development of libraries that contribute to the solution of the current social issues in Myanmar.

- Human Resource Development [Human Resources]

TRC holds a wide range of human resource development programs specialized for library operations. The trainings cover every level of librarians, from new employee to head of a library. TRC understands that professional talent development is particularly important in Myanmar now for the growth of the library industry.

- Planning and holding educational programs and events (including research learning competitions using libraries) [Human Resources]

TRC holds a wide range of library programs and events in Japan. TRC will transfer the know-how to localize the program to fit the actual situation and people in Myanmar. Consequently, the programs and events will contribute to increase and develop book reading habits.

Spec ideas which TRC will promote are the followings, (1) library program including book reading, singing, and book lending (by visiting), (2) events in cooperation with Japanese companies and organizations, and (3) "Research learning competitions using libraries" that TRC have conducted in Japan for more than 20 years.

TRC is willing to create and organize these activities in collaboration with local counterparts and partners. Intersection 60 in collaboration with New National Library is one of the hub for these activities.

(4) Counterpart Organization

New National Library of Myanmar (located in Yangon)

(5) Target Area and Beneficiaries

<Target Market>

The target of the "problem-solving" children's libraries are elementary school students and younger ages living in the Yangon area. Approximately 1.5 million of the city's population is under elementary school age⁹ according to the United Nations Population Fund.

While about 2,000 libraries are registered in Yangon, only 10 percent of them are operating¹⁰. Therefore, there are supply and demand gaps of library service provision and demand of target people (students and younger ages) who need or wish for library service or opportunity.

<Local Needs>

Core actor to fill the demand-supply gap above is the government. Represented by State Counsellor Aung San Suu Kyi and President Win Myint, the Myanmar government has set out policies for the development and promotion of libraries. As its policy, the opening of the new national library in Yangon, and the development of public libraries are underway. New national library in Yangon shows its expectation for TRC to support increasing "library culture" and let more people to come and use libraries.

(6) Duration

April 2019 to June 2020

(7) Survey Schedule

TRC has conducted 7 survey activities in Myanmar.

- 1st Activities: June 23, 2019 - June 28, 2019
- 2nd Activities: September 14, 2019 - September 21, 2019
- 3rd Activities: October 14, 2019 - October 18, 2019
- 4th Activities: November 26, 2019 - December 1, 2019
- 5th Activities: December 9, 2019 - December 13, 2019
- 6th Activities: January 9, 2020 - January 19, 2020
- 7th Activities: March 2, 2020 - March 7, 2020

⁹ United Nations Population Fund, "The 2014 Myanmar Population and Housing Census"
<https://myanmar.unfpa.org/sites/default/files/pub-pdf/Yangon%20Region%20Census%20Report%20-%20ENGLISH.pdf>

¹⁰ Asia Foundation "Myanmar Library Survey" (2014)
<https://asiafoundation.org/resources/pdfs/MyanmarLibrarySurvey.pdf>

3. ACHIEVEMENT OF THE SURVEY

TRC recognized the following challenges and needs on current situations of libraries in Myanmar as a result of the survey.

- Know-how and experience on development and promotion of library culture and operations
- Numbers of professionally trained librarians
- Creating places and programs to foster joy of reading books (Eg. Book reading events, workshops)
- Number and variety of quality picture books. (Picture books that preaches Buddhist teachings are popular among parents. However, there is a shortage of picture books that children can read with pleasure.)

With recognitions above, TRC determines (a) human resource, (b) books, and (c) technologies are the three key axis of TRC in building its problem-solving library business model in Myanmar, in order to contribute to establishing and developing children's reading habits,

In collaboration with partners, TRC held four library programs at four venues. 250 children between age of 3-12 and their parents participated. The number of participations to the program itself shows the interest and needs. The result of our library programs proved the followings; TRC's library programs provided by its professional personnel, as well as Japanese picture books, are well accepted and fostered joyful reading experience in Myanmar. Details are as per below.

- Effectiveness of library programs and professional talents

Library Programs and Professional talents of TRC, trained and developed through rich experience in Japan, worked effectively in the context of Myanmar too. The result of our programs and events proved this.

Almost all participants appreciated and enjoyed story-telling of picture books and craft workshop. The event venue were filled with energy of joyful reading and creativity of children. The questionnaire result supports this results as follows.

-All 11 children and their parents evaluated "high" <after the Program at the book store >

-10 children and their parents evaluated "High" or asked to make this program more frequent or regularly. <after the Program at Japan Foundation >

- High evaluation for quality picture books made in Japan

Great interest and needs are confirmed on quality picture books, made in Japan. In the programs, TRC lend 70 Japanese picture books with Myanmar translations. Almost all children went focused in reading these books until the end of the program. In addition, many parents asked they wanted to buy those books. For the questionnaire on "if you would like to purchase those books in Myanmar language", all 13 respondents answered as "they would like to purchase".

4. FUTURE PROSPECTS

(1) Impact and Effect on the Concerned Development Issues through Business Development of the Product/ Technology in the Surveyed Country

TRC plans to realize development impact on the following SDGs goals through its business by supporting library culture and operation development in Myanmar.

Fostering the ability to obtain information and to think for themselves will promote their lifelong learning opportunities (SDG's Goal4).

In addition, development and management of information in libraries and enhancing access to information by the public will contribute to the promotion of sound democratization (SDG's Goal16).

The specific contribution logic and development effects of this business are as follows.

- A) Input : Professional human resources with experience and know-how of TRC's library service and operation.
- B) Activities: Consultation service to Myanmar government/New National Library/public libraries, organizing programs and events, supporting for information management and system development, etc.
- C) Short-term effects: Increase in quality and quantity of library management and human resources, increase the amount of library use by children, fostering reading habits, etc.
Medium- to Long-term effects: Library development and management know-how transfer to Myanmar, increase in the amount of library use by children, fostering of reading habits, etc.

(2) Lessons Learned and Recommendation through the Survey

In Myanmar, hardware improvements, such as the development of a New National Library, are underway. This is a great progress that most of people in the industry have already recognized. However, in addition, it is essential to strengthen library functions on the soft side too, as described in the sections above. This will increase attractiveness of libraries, and make people to visit and use. Consequently, it will contribute to the challenge of increasing and developing children's reading habits.

Development of library professionals and publishing industries are two key elements to enhance soft side functions. This will take long time. Therefore, it is necessary for relevant government institutions to share awareness and actions of the challenges of developing children's reading habits. Specifically, educational tools may be considered. Examples are making more educational opportunities to increase content creators, such as picture book writers, and making international

exchange programs for library personnel.

TRC aims to contribute to increasing and developing children's reading habits, through the approach of (1) human resource, (2) books, and (3) technologies.

In collaboration with New National Library of Yangon, TRC will work with the New National Library to attract more people including children by using TRC's know-how, professionals, and network of publishers. TRC believes this collaboration will lead to develop reading habits in Myanmar, which results to enhance ability to learn and think by themselves.

Specifically, in the New National Library building, TRC will open "Intersection 60", a showroom with the concept of "cultural intersection", in May 2020. Intersection 60 is a physical place to strengthen cooperation with the National Library, and connect new cultures and technologies to Myanmar.

As part of its first project, the showroom will hold an exhibition that will introduce Japanese children books to people in Myanmar. In addition, there will be a section where visitors can freely read Japanese children books translated in Myanmar. By providing a place where visitors can read high-quality Japanese picture books, TRC will promote the use of the New National Library, and contribute to the increase and development of children's reading habits.

TRC believes in the power of the county and library related professionals of Myanmar. TRC will bring and utilize its experience, resources and know-how for local challenges and needs. TRC is willing to be a part of library culture and operation development for future Myanmar through collaboration with local counterparts and partners.

ATTACHMENT: OUTLINE OF THE SURVEY

Challenges in the target country

- The government has set a policy to promote libraries. However, challenges exist in the development of professionally trained human resources and know-how on library development and operation.
- Educational reform from memorization base to fostering individual ability to think is underway. In this context, developing library culture and operations to foster reading habits is the core theme.

Product/Technology to be provided

- Support developing “Problem-solving” libraries to solve local social issues. Consulting for library development and operation & Human Resource Development (Developing professionals for libraries)
- Planning and holding of educational programs (including research learning competitions using libraries).
- Information management for Libraries (MARC database system construction support, etc.)

About this project

- Contract Term: April 2019 to June 2020
- Targeted Area: Myanmar (Yangon)
- Outline of the Project: TRC to build a "problem-solving" children's library model through the pilot project utilizing its experience and know-how of library service in Japan. TRC to build and test development impact model and formulate business model.



Problem-solving library

Business model

- TRC developed the following two business models
- (1) Providing consultation and human development services for the planning and operation of government library (Eg. children's libraries of the New National Library).
- (2) Planning and operating children's library by private sector.

Contribution to challenges in the target country through business development

- Increasing and developing reading habits by enhancing and making opportunities.
 - Support developing library culture and operation
 - Increasing children's library use
- TRC will make above contributions through its library service businesses in collaboration with local counterparts and partners.

May 29th, 2020